

令和3年度
会津若松市男女平等に関する作文コンクール

入選作品集



会津若松市

目次

令和三年度「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会 会長 鈴木 秀子

●小学生低学年の部

最優秀賞	男女平等をあたりまえに	城北小学校	三年	渡邊 <small>わたなべ</small>	結菜 <small>ゆうな</small>	さん…1
優秀賞	男女びょうどうを考える	城南小学校	二年	岩山 <small>いわやま</small>	権大 <small>かいと</small>	さん…3
優秀賞	女の校長先生	城南小学校	三年	羽賀 <small>はが</small>	優佳 <small>ゆうか</small>	さん…5
優秀賞	みんなが自分らしく生きる	一箕小学校	三年	渡辺 <small>わたなべ</small>	一真 <small>かずま</small>	さん…7

●小学生高学年の部

最優秀賞	差別をしないで男女平等に	一箕小学校	六年	小貫 <small>おぬき</small>	嵩 <small>たける</small>	さん…9
優秀賞	性別をこえて自由に生きること	謹教小学校	五年	五十嵐 <small>いがらし</small>	ひ菜乃 <small>ひなの</small>	さん…11
優秀賞	男女平等について思ったこと	謹教小学校	六年	田沼 <small>たぬま</small>	陽菜 <small>ひな</small>	さん…13
優秀賞	日本の未来へ願うこと	一箕小学校	六年	渡辺 <small>わたなべ</small>	真悠 <small>まゆ</small>	さん…15

●中学生の部

優秀賞	性別を越えて	一箕中学校	二年	塚田 <small>つかだ</small>	暖菜 <small>はるな</small>	さん…17
優秀賞	女だからするべき事とは？	第三中学校	三年	渡部 <small>わたなべ</small>	凜 <small>りん</small>	さん…19

※同賞については氏名50音順です。
 ※公表の承諾を得た作品を掲載しています。
 ※各作品の講評は、選考審査を行っていただきました会津若松市男女共同参画審議会委員の皆様によるものです。

令和3年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会

会長 鈴木 秀子

会津若松市は、すべての人々が性別にかかわらず多様な生き方を尊重され、それぞれに個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな取り組みを行ってきました。男女平等に関する作文コンクールもその取り組みのひとつで、第5次会津若松市男女共同参画プランのコンセプト「次世代を担う子どもたちへの期待」のもと、実施されています。

今年度は185作品の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞2作品（小学生低学年1、小学生高学年1）、優秀賞8作品（小学生低学年3、小学生高学年3、中学校2）を選出いたしました。

作品の中で子どもたちは、世帯・家族、就業を取り巻く環境及び人々の男女共同参画に関する意識が変化する中、身近な家族からのメッセージや周囲の状況をしっかりと観察し、客観的・多面的に考えながら自分の意見をまとめています。特に今年度は、東京オリンピックピックにおいてジェンダー平等が話題となったこともあって、より広い視野をもって書かれた作品が見られました。小学生低学年の作品は、日常の中で感じた素朴な疑問から男女平等について考えまとめた意見が、素直な言葉で表現されています。高学年の作品は、世界の中でもジェンダーギャップ指数が低い日本に目を向け、自ら男女平等社会の実現に向けて行動していく決意や男女平等社会への期待、中学生の作品は、社会通念のもとで起きている男女平等に関する事柄を深く掘り下げて考え、人としてお互いを尊重し合いつつ責任も分かち合うことの大切さが綴られています。

この作文コンクールをきっかけに、多くの子どもたちが男女平等や男女共同参画について関心を持ち、性別による固定的なイメージや役割分担にとらわれず、自分らしく生き、個性と能力を十分に発揮することができる社会づくりに貢献して下さることを期待しています。

私たち大人は、作品に込められたメッセージを受けて、男女共同参画社会の実現に向けて前進しなければならぬと痛感しております。

優賞
最秀

男女平等をあたりまえに

城北小学校 三年 渡邊 結菜

夏休み中のことです。テレビを観ていたら、おどろくニュースがやっていました。

アフガニスタンという国で、女の人を全身をおおぶるブルカという布を身に着けないで外を歩いて、じゆうでうたれて殺されてしまった、というものでした。

タリバンというそしきがじゆうやばくだんなどの力で国をのっとってしまったから、今のアフガニスタンという国は、国の人みんながたいへんな思いをしているんだよ、とお母さんが教えてくれました。

わたしは、インターネットでタリバンの女性について調べました。すると、タリバンは約二十年前にもアフガニスタンのせいじを支配していて、その時は、女性が仕事をすることや学校に行くこと、病院にかかることもゆるされず、外出する時にはブルカ

を着ることがぎむづけられていたと書かれています。

女だからといって、学校や仕事、病院にも自由に行けないなんて、おかしいと思いました。

日本でも昔は、女だからという理由で学校に出してもらえなかったり、せんきよでとうひょうできなかったりしたそうですが、わたしのおじいちゃんやおばあちゃんが生まれるもつと前の話だそうです。

世界では、ほかにも十才くらいの女の子が結婚させられてしまう国があるそうで、女の子がウエディングドレスを着ている写真を見ました。

どうして世界では、女の人を男の人よりも弱くあつかわれてしまうのかなとふしぎに思いました。

SDGsの十七の目ひょうのうち、五つ目に「ジェンダー平等を実現しよう」とありました。ジェンダーとは、社会の中で「女性らしい」「男性らしい」とされている役割や行動、考え方などの社会的性別のことをいうそうです。

日本は、学校の校長先生やけいさつ官に男の人が多かったり、かんごしさんやスーパーのレジの店員さんに女の人が多かったり、仕事によって男の人の仕事・女の人の仕事という考え方が強く、世界のほかの国とくらべると、まだまだジェンダー平等ではないそうです。

二〇三〇年まで、あと九年。そのころわたしはきっと高校生です。今はまだわからないことばかりだけれど、男の人も女の人も性別に関係なくすべての人、一人ひとりが自分の能力をはつきして働くことのできる社会になっていればいいなと思います。

そして、いつか「男女平等」や「ジェンダー平等」という言葉がなくなって、それらがあたりまえになるといいなと思います。

講評

日本だけでなく世界の出来事から、男女の不平等に気づき、SDGsの視点も交えて「男女平等」「ジェンダー平等」という言葉が無くなり、当たり前前のこととなる世の中を願っていることが素晴らしかった。

優秀賞

男女びようどうを考える

城南小学校 二年 岩山 權大

男女びようどうってなんだろう？ぼくは、わからなかったの、お兄ちゃんにくくごじてんをひいてもらって教えてもらいました。そこには、「男女のせいべつによるさべつをうけないこと」とかいてありました。

ぼくは、それをきいて、ハツとしました。

ぼくは、ことしの一月にサッカーのスポ少に入りました。はじめてれんしゅうにさんかした日、六年生のおねえさんや、ぼくと同じ一年生の女の子が、いっしょにれんしゅうをしていました。ぼくは、サッカーというの、男の子がするものとおもいこんでいました。だからスポ少に女の子がいるとは思っていませんでした。いまおもうとぼくはさべつしていたのかもしれないとおもいました。

ぼくが入っているスポ少は、男の子も女の子もいっしょにおなじメニューのれんしゅうをして、おなじしあいに出しようして、みんなでいっしょけんめいボールをおいかけています。だから、男の子とか、女の子とかかんけいありません。点数が入ったときには、みんなでよろこびます。これが、男女のさべつのないということなんだとおもいました。

つぎに、ぼくのおとうさんとおかあさんはあさから夕方までしごとをしています。いえのことは、ふたりでやっています。ごはんは、毎日おかあさんがつくるけど、おかあさんのかえりがおそいときや、ぐあいかわるいときは、おとうさんがごはんをつくれます。ごはんをよそったり、おさらを出すのは、おねえちゃんとおぼくのしごとです。日曜日のあさもおとうさんがときどきあさごはんを作ってくれます。おとうさんのつくるフレンチトーストは、さいこうでいつもおかわりしています。みんな、きょうりよくすると、ごはんをたべはじめる時間が早くなっ

て、はなしをする時間やみんなであそぶ時間がふえます。ぼくのいえのほかにも、おとうさんもおかあさんもしごとをしているいえがたくさんあります。おかあさんだからいえのことをするとか、ぼくたちのせわをしなくてはいけないとかではなくふたりともいそがしいときは、いえのことをびょうどうに、きょうりよくしあうことが一ぼんだとおもいます。ぼくのいえは、びょうどうだとおもいます。

これからも、ぼくはいまできるおてつだいを、いっばいして、かぞくみんなが、ハッピーにすごしたいと思います。

講評

スポ少での体験を通して、男女平等とはどういうことなのかを真剣に考えていて、素晴らしいです。また、父母が互いに助け合っている姿から、男女平等の大切さを素直に表現しています。模範となる素敵なお家ですね。SDGsをきっかけに、男女平等の意識が高まっていけばと思います。

優秀賞

女の校長先生

城南小学校 三年 羽賀 優佳

わたしは、校長室の前を通りました。れき代の校長先生のしゃしんが9まいもかざってあります。その時、かみが長い女の人のしゃしんがあることに気がつきました。

「女の人も校長先生になれるんだ。」
と、わたしははじめて知りました。お母さんにそのことを話すと、びっくりして、
「お母さんの子どものころは、女の校長先生は一人もいなかったよ。さいきはたまに女の校長先生がいるみたいだけど、まだまだめずらしいよね。」
と言っていました。どうして男の人ばかり校長先生になるんだろう。ふしぎに思いました。世の中の人たちが、校長先生は男の人の仕事だと思いきこんでいるからなのでしょう。でも、わたしがようち園の

時の園長先生は女の人でした。だから女の人だって校長先生になれると思います。

女の先生はたくさんいます。それなのに、女の校長先生はとても少ないです。校長先生になるには、いろいろないけんやしけんがひつようだそうです。女の人が校長先生になりたいと思っても、もしもけっこんしていて子どもがいたりしたら、先生の仕事と家事や子そだてをしながら、べん強するのは大へんだから、あきらめてしまうのでしょうか。女の人もできる力をもっているのに、その力をむだににしてしまつては、もったいないと思いました。

たしかに女の人しか子どもはうめないけど、家事や子そだては、男の人にもできます。だからといって、男の人が全部やればいいということではありません。女の人と男の人がきょう力すれば、どちらもすきなことをできるのだと思います。校長先生になるのはむずかしいから、男はできても女はあきらめ

るという考えをやめないと、男女が平どうにはならないのです。

わたしにはゆめがあります。学校の先生になることです。そして男の子も女の子も、やりたいこと、すきなこと、自分のゆめや目ひようをかなえられるように教えられる女の校長先生になりたいです。そのため、水泳が大のにが手なので、50 m泳げるように練習しなければいけないあと思いました。お母さんにこの事を話したら、

「三年生らしく、おべん強だけではなく、お手つだいや身のまわりをきちんとすることもできるようながんばらないとね。」

と言われました。家のお手つだいをしっかりして、いろいろな事をおぼえたいです。そうすれば、だれかがこまっている時、助ける事ができるかもしれない、と思いました。

講評

こころざしが高く、とてもたのしいです。お母さんが子どものころにはいなかった女の校長先生が今はいるように、羽賀さんが大人になるころには女の人ができる仕事があふえ、えらべるようになるといいですね。

いまは男の人がしているけど、女の人でもできる仕事を大人になるまでにたくさん見つけてください。

優秀賞

みんなが自分らしく生きる

一箕小学校 三年 渡辺 一真

お母さんに、

「男女平どうってわかる？」

と聞かれた。平どうは、同じってことだから、男女
いっしょってことかなあ。よくわからないのでじ書
で調べてみると、『平どう』は、さべつがなくみん
な同じであることと書いてあった。そして『さべつ』
はさをつけてあつかうことと書いてあった。だから、
男女平どうは、男の人と女の人をさをつけることな
くみんな同じといったことだろう。じ書で調べてみ
てもなんだかピンとこなかった。だって女の方は、
赤ちゃんをうむけど男の方はうまないし、男の人の
ほうが力が強いから重い物をはこぶことができる。
どこが同じだろうと思った。
お姉ちゃんのスカートをはいてみたくて、家では
いたことがある。スカートをはいたら楽しくてウキ

ウキした。女の子はスカートをはく日もあれば、ズ
ボンをはく日もある。かみの毛にリボンをつけたり、
つめにきれいな色をぬったりするのもいいなあと思
う。あつい夏の日にはぼうず頭にしたい女の子もいる
のかなあ。ドッジボールの時に強いボールをなげら
れたらいいなあと思ってる女の子もきつといるだろ
うなあ。

ぼくがころんでないいたら男らしくないと言わ
れたことがある。女の子がけんかをしていたら、女
の子らしくないと言われているのを聞いたことがあ
る。男はないたらいいけなくて、女はけんかしていけ
ないなら、それは平どうなのかなあとおしぎに思っ
た。習字で大きく太い字がかけたら、おばあちゃん
に

「一真くんらしくていい字だね。」

とほめられた。とってもうれしかった。自分らしく
というのは、男らしいよりも女らしいよりもすてき
な言葉に聞こえる。

ぼくのお父さんは、シェフだから、男だけどりよう理がじょうず。りよう理がすきだからシェフになったと話してくれた。ぼくは、サッカーをならって、コーチは、男の人ばかりだけど、お母さんは休みの日にいっしょにれん習してくれる。男の人がりよう理をしたって女の人がサッカーをしたってその人が楽しければそれがいいと思う。

男女平どうは、男の人も女の人も自分らしく生きることだと思った。男の人と女の人でできることとできないことのちがいはあるけど、好きなことやとくいなこと、きらいなことやにがてなことはそれぞれみんなにあって男の人も女の人も同じだとわかった。だからぼくは、男女平どうは、みんなが自分らしく生きることだと思った。

講評

男女平等とは、男女の性差はあるけれどそれにとらわれず、「みんなが自分らしく生きること」が大切だと理解するなど、自身の体験や身の回りの様々な出来事を通して、更には暖かな家族との関わりの中で様々な学んではいる様子が伺え、作者の心の豊かさを感じる作文でした。

優賞
最秀

差別をしないで男女平等に

一箕小学校 六年 小貫 嵩

ぼくは、男だから、女だからといった差別はしてはいけないと思う。男子がままごと遊びをして、女子が外遊びをしてもそれは、人の好みだからおかしくないと思う。人の好みはそれぞれ違うからそれをおかしいと思っではいけない。ぼくの家族では、母は朝から夜まで働いていて、父は料理ができる。ぼくと妹は人形で遊ぶこともある。このように人それぞれちがうのだ。

男女平等度をインターネットで調べてみると、日本は世界百五十六か国中百二十位でG7の中で最下位だった。また、男女平等でないと感じる人の割合は七割強もあった。

これを見てぼくは、非常に残念に感じた。それは、経済的にも発展している国でありながら、男女平等比率が低いことと、国連で提唱されているSDGs

持続可能な開発目標の五つ目の「ジェンダー平等を実現しよう」という目標の中に男女平等が定められていることがあるためだ。これから男女平等が日本の課題になると思う。だから普段から男女平等の考えを身に付けていかなければならない。

一方、男女平等度が一位だった国は、十二年連続一位のアイスランドだった。アイスランドでは、政治や経済の分野で女性の割合が高く法律で男性、女性の割合を一定以上に定める「クオータ制度」が導入されていて、企業の役員や国会議員の四割以上が女性となっている。この割合をシーソーに例えるとほぼまっすぐで平等なシーソーになっている。アイスランドに比べて日本は、女性の国会議員の人数が四十七人で全体の割合は、一割で、シーソーに例えると男性のほうが重いシーソーになっている。日本は、女性の国会議員の数を増やしたほうが良いと思う。それは、男性の意見ばかりにかたよってしまう

ためだ。そのため女性の国会議員を増やし、バランスの取れた議論を交わすのが良いと思う。

ぼくは、男女平等を活発にするための方法を三つ考えた。

一つ目は、男女による給料の差をなくすことだ。

二〇一四年の調査によるとなんと差は、二十五パーセント以上もあった。ぼくの父にも聞いてみたが、男女の差はなくなってきているとのことだった。

二つ目は、家庭の家事の分担をすることだ。母親は子育てと家事で負担がかかっている。そこで父親も手伝い、夫婦で分担することで他方の負担がなくなり平等になる。

三つ目は、「男だから」、「女だから」と決めつけないことだ。男も女も同じ人間だ。だから、決めつけない考え方を常に持つことが重要だと思う。ぼくは身近なところから男女平等の考えを取り入れて、世界がもっと男女平等で、差別のない世の中になるよう行動していきたい。

講評

男女平等度をインターネットで調べ、先進国中最下位で日本は、7割強の人が男女平等でないと感じている現状に気が付いたことがよい。

さらにSDGsのNO.5「ジェンダー平等」に言及し、その打開策を具体的にあげているのもよい。

優秀賞

性別をこえて自由に生きること

謹教小学校 五年 五十嵐 日菜乃

わたしの進学する予定の中学校で制服が新しくなった。それにより、女子生徒もズボンの着用ができるようになった。私は考えた。男子がスカートを用することはできるのだろうか？女子がズボンを用することができればのならば男子もスカートを着用すべきだと私は思う。同じように考えた母が市議会議員の人にそう言うと、

「女の子のスカートは可愛いけれど、男子のスカートはちよつと…」

と言われたそう。可愛いとか可愛くないとか、そういう問題ではないと思う。周りの人がどう思うかで私達は服を選び着ているわけではない。自分の好きな服を着て、自分自身を表現するために着ているのだ。

私の通っていた幼稚園では女の子はピンク、男の子は青とスモックの色が決められていた。なぜ、女の子はピンク、男の子は青なのだろうか。ピンクを着たい男の子もいるし、青を着たい女の子もいると思う。私の兄は、いつも女の子と一緒に小人形遊びをしていた。兄も、もしかしたらピンクのスモックを着たかったのかもしれない。小さい頃から性別で色や形などを決めつけたくないでほしい。なぜなら、女の子はピンク、男の子は青と決めつける事はおかしな事だと思うからだ。

性別によって決めつけられている事は他にもまだまだたくさんあると思う。たとえば、女性は家事をし、男性は仕事をする。他にも、結婚したら女性が男性の姓を名乗ることが、圧倒的に多い。そして、学校の習字セットやさいほうセット、彫刻刀などの柄や色も女の子と男の子で分けられている。

私の父は、家の洗濯や掃除、料理などの家事を行ってくれている。そして、母は毎日、仕事をがんば

っている。性別などは関係なく協力していれば、それでいいと思う。

私のさいほう道具と彫刻刀は、兄のお下がりだ。自分は別に構わないと思う。もし、自由に柄や色を選べたとしても、かっこいい柄を選んでいただろう。そして、私の友達も男の子だが、姉のお下がりで可愛い柄を使っている。だが本人は特に気にしていない。柄や色は、周りの人がどう思うかなんて気にせず、好きに選んでいいと思う。

このように、性別によって色んな事が決めつけられたり、押し付けられたり、それが正しいと思いつまされていく。だが、本当は、一人ひとりが性別にとらわれることなく、自由に生きるべきだ。お互いの思いをそんな重し合い、思いやりをもって、男女関係なく協力し合える社会になるといいと思う。

講評

最初に男女の服装について、疑問を抱いています。大人が常識だと思っている点について、なぜだろうと疑問を呈し、周りの目を気にせず、自分自身を表現するために着ているという考え方に共感を覚えました。家庭にあっても、家事について、両親の役割分担に注視し、思いやりをもって協力し合える大切さを認識し、社会全般についても、同じことが言えるのではと。男女平等を考えるうえで、非常に大切だと感じました。

優秀賞

男女平等について思ったこと

謹教小学校 六年 田沼 陽菜

今年の夏、東京オリンピックが開かれました。私は毎日のように様々な競技を見て、頑張っている選手を応援していましたが、そこで気がついたことがあります。それは、今回新しく加わった種目の中に、男女混合の競技がいくつもあったことです。新聞やニュースなどで調べてみると、混合種目はジェンダー平等を広めていくために、採用されたものであることがわかりました。そもそもオリンピックが始まった頃は、「女人禁制」だったそうです。今では考えられないことが、その当時はあたり前のこととして、考えられていたことに、とても驚きました。男女の役割が完全に分かれていた時代では、男性らしさ、女性らしさが求められそれによって、悩んだり苦しんできた人達が沢山いたのではないかと思いました。

混合種目のように、男性と女性が協同して行う機会が増えたり、男女平等という事が当たり前になった時代ですが、身近にもまだまだ男女が分かれていたり、平等になっていない事もあると思いました。例えばトイレです。学校のトイレは男性と女性と別々です。スーパーマーケットでも、図書館でもほとんどの所は、男女別々に設置してあります。トイレがそうになっていることは、「当たり前」のことだし一緒になっているなんてはずかしいし、別々でも誰も困らないのではないかと思いましたがそうではありません。LGBTと呼ばれる性的マイノリティの人達の存在を私は新聞で知りました。LGBTの人にとってはトイレが男女別になっている事は「当たり前」のことではなく、悩み苦しむ事につながっているんだという事を知りました。知らず知らずのうちに誰かを傷つけたり、苦しめていたかもしれないと思うと自分はずかしくなりました。

私は三人姉妹です。姉と妹と私です。三人姉妹だと二人と一人に分かれて、けんかをしてしまう時もあるけど姉は勉強を教えたりしてくれたりして、妹は一緒に遊んでくれるので大切な存在です。私の父や母は、私達が女だけの姉妹であることから、「男の子はいないのね」「もう一人男の子が生まれると良いね」と言われたことがあったと話していました。その時、母はとても傷ついたそうです。男でも女でも元気にうまれてきてくれて、うれしかったし、健康で自分らしく育ってくれて十分だよと私に話してくれました。それを聞いて私は男とか女とか関係なく一人の人間として、自分らしく命を大切に自分にほこりをもつて過ごしていきたいと思いました。

講評

オリンピックの歴史、女性の参加を調べ、混合種目から男女共同について自覚し、トイレの問題でLGBTへの自分の考えを述べ、まとめとして自身の家庭内で「一人の人間」を導き出した事は、大変重要な事でした。

優秀賞

日本の未来へ願うこと

一箕小学校 六年 渡辺 真悠

二〇三〇年に私はちょうど二十才になる。その時の日本はどんな国になっているのだろうか。私はどんな生活をしているのだろうか。

新聞記事によれば、今、世界では男女関係なく一人ひとりが活やくできる社会を目指そうという意識が高まっているようだ。そして、国連でも二〇三〇年までに男女の不平等をなくそうと呼びかけていると書かれていた。

男女の間にどれだけ格差があるのかを示すジェンダーギャップ指数というものがある。それは、スイスの研究機関が毎年、経済・政治・教育・健康の四つの分野で表しているものである。おどろくことに二〇二〇年、日本は一五三か国中で百二十一位とのことだ。日本は先進国であるといわれているのによく見えてしまう。ジェンダーギャップ指数を細かく見

てみると、特に政治面と経済面が低いことが分かった。国会議員の男女比、閣僚の男女比、会社の役員・管理職の男女比の割合が世界に比べてとても低く、また、賃金の男女格差があることが原因のようだ。

そんな中で、今年二月、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の森会長が女性を見下す発言をしたことで批判を集めた。元内閣総理大臣である森会長の発言は、政治や経済面でのジェンダーギャップ指数の低さの原因となる男女平等の意識の低さを表していると感じてしまう。

日本では、長い間、男性は外で働き、女性は家で家事や育児をすることがふつうであるとされ、男女で役割を分担してきた。その分担の割合を今、見直すことが重要だと思う。男だから外で働く、女だから家事や育児をするというのではなく、その人の得意なことを活かせる社会になってほしい。

どうすれば男女平等でだれもがのびのびと自分がやりたいことができる社会を実現することができる

だろうかと考えてみた。私は男性も積極的に家事や育児に参加することが一番の近道だと思う。男性でも料理が得意な人もいれば、子どもと遊ぶことが好きな人もいるだろう。それと同時にそうじが苦手な女性もいれば、仕事が大好きな女性だっている。家事や育児は自分の得意なことや好きなことを優先して分担すれば、女性によゆうが生まれ、積極的に社会に出て仕事ができるようになるだろう。

二〇三〇年、私が二十才になるころには、楽しく仕事をしながら、家事も育児も自分らしくできる社会になっていてほしい。

講評

ジェンダーギャップ指数が低い理由・原因を分析し、男性の家事育児への積極的参加により女性に余裕が生まれ、もつと女性の政治経済参加が可能になり、男女共仕事でも家庭でも活躍できるようになると考えた所がすばらしい。

優秀賞

性別を越えて

一箕中学校 二年 塚田 暖菜

好きで女性に産まれたわけではないのに、女性というだけで不平等だと思ふことが多岐にわたる。例えば、中学校の制服だ。女子はスカートのため、夏は涼しいが日焼けが痛く、冬はタイツ着用が認められていないが、とても寒い。吹雪の日は、男子ばかりズボンで不平等だと思つてしまう。他にも、朝の忙しい時間に化粧をしなくてはいけないのは女性、洗濯や料理等家事をすることが多いのも女性だ。

日本の男性が日常の家事に費やす時間は一日あたり二十五分で、OECDの中で下から三番目という調査結果だった。男性が家事をやらなすぎている自覚があるのは、なんとOECDの中で第一位だった。女性も社会進出が増えてきた今の時代だが、男だから女だからと色めがねをかけて偏った先入観をもっている人がまだまだ多いのではないだろうか。女性だからといって、世間の

時代遅れの常識を多様性のある今の時代を生きる私達に押しつけないでほしい。

しかし、女性ばかり不平等だと思つたが、本当にそうだろうか。中学校の制服だが、男子のズボンは冬は暖かいが、夏は暑い。化粧をするのも、化粧して顔を魅力的にかえることができ羨ましいと思つているかもしれない。男性は男性で、不平等差を感じているかもしれない。性別に関係なく、相手の立場になつて物事を考え、歩み寄ることが男女平等への第一歩なのではないだろうか。

昔から比べると、世界的にはまだまだ少ないが、イクメン、主夫と言われるように、家事に協力的な男性が増えてきたと思う。私の祖父母は二人共、料理、洗濯、掃除等何でも家事をこなしていて、性別に関係なく、互いを思い合い、協力し、助け合っている。我が家では、主に母が料理をし、父が風呂掃除や金魚の水交換等をする。しかし、母の体調が悪い時や忙しい時は父が代わりに料理をする。たまに父が作る料理は、焼きそばや野菜炒め

が多い。野菜は大きくザク切りで、火が通っていない状態で固い部分もたまにあるが、母を気遣う父の優しさの味がした。味が少し濃かったが、美味しかった。不器用ながらも互いに助け合う姿に、性別は関係なく互いの気持ち次第で男女平等にも不平等にもなるのだと考えさせられた。

私も将来、祖父母や両親のように互いを思いやる優しい気持ちをもった家庭を築いていきたい。相手を思いやる気持ちに男女の性別は関係ない。誰しも日々の生活に追われ、一生懸命自分の人生を生きている。産まれもつた性別に振り回されず、性別を足枷にせず、互いの個性を尊重し合う優しい世の中こそが真の男女平等な世界ではないだろうか。男女では力も体つきも違い、女性は出産があり、そういう意味では男女不平等だが、思いやりや優しい気持ちをもつことができる精神面では、男女平等になれるのではないだろうか。

講評

制服について今まで「当たり前」とされてきたことに疑問を感じたことを例にしながら、ご両親の互いを思いやる姿勢など家庭内の出来事をはじめ、多くのものを見聞きするようになって、自分自身の心の中にある何か、ゆつくりと少しずつではあるが変わってきた。そのような様子が見受けられよかった。

賞
秀
優

女だからするべき事とは？

第三中学校 三年 渡部 凜

私は幼い頃から何か新年やクリスマス、子供の日などのイベントがある度父方の祖父母の家に従兄達と集まって祝っていました。幼い頃は何とも思わなかったのですが年が経過していく内に「あれ？」と思うような事が何度もありました。

女性はみんな夕食の準備をしていて、子供の私もできる手伝いをさせられていたのですが男性は皆テレビを見てくつろいでいるのです。どうして手伝わないのか、どうして誰もその事について言わないのか。不思議に思っただけで祖母に聞くと祖母は、

「いいんだよ男は、女はこういった準備だとかをしないといけないから。女にとってはこれが役割みたいなものなんだ。」

私には祖母の言っていることがよくわからず、祖母の話での疑問があったのでそれをまた聞きました。

「じゃあ男の役割は何？準備とかでご飯を食べる人みんながしないといけない事じゃないの？」

そう言うのと祖母はなぜかイライラし出して、

「男は男、女は女でやることがあつてそれが違うだけだ。」

と言いました。今思うと祖母は、「男は仕事、女は家事ができていれればいい。」という古い思想の持ち主だったのだとわかります。それにしても、「父はなぜいつも家ではご飯の準備をみんなですしているのにこの家に来るとくつろぎだして何もしないのだろう？」とも思いましたが、それも祖母がそのような思想だからきつとこの家で過ごしていた時はそれが普通だったのだろうとわかりました。

私は家で考えました。「女だから、男だからその違いでしなくてはいけないことは変わるのか？」と。女だから料理が上手い、女だから家事ができるのは当たり前。でもテレビでよく目にする料理人は男の方が多いい気がします。つまりは女とか男とかそ

んなものの前に、人であれば誰しもが努力をすれば料理を上手くつくれるのです。それならば男、女と分けずに得意な事を得意な人がして、そして不得意な人に教え、その人は努力する。そうすれば私がおかしいと感じた場もみんなが公平に動き、そうやって始めて夕食を食べる時に良い気持ちで「いただきます」

と言える気がする。人としてその方がいいと思いましたが。

私は、この考えを母に話しました。母に、

「私もそう思うよ。食べる時だけ食べてそれまでの事もその後の事も女にやらせて、ありがとうも言わない。それが普通になってるのは赤ちゃん家だけじゃないから、きつと男尊女卑って言葉がなくならないんじゃないかな。凜は将来どんな世界で生きていと思う？」

と聞かれました。

私は男尊女卑のない、だからと言ってそれが反対になった様な世界ではなく皆が皆公平に評価され、男女の違いで不快に思う事がない。そんな快く過ごせる世界が人にとって一番生きやすいのではないかと思います。

◆
講評
◆

祖父母の家と自分の家との違いから、自分の考えをしっかりとまとめている。皆が公平に評価され、男女の違いで不快に思う事がない、快く過ごせる世界が人にとって一番生きやすいのではないかの考えに至ったことが素晴らしかった。

男女共同参画都市宣言

(市制百周年記念)

美しい自然と確かな歴史、豊かな文化に恵まれた会津若松市の市民として、誇りと自信を持ち、男女の平等を基本理念に、「男女共同参画都市」を宣言します。

1 わたしたちは 性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは お互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に男女が共同で参画でき、いきいきと暮らせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは 共に手を取りあい、かけがえのない地球の環境を守り、平和で豊かな会津若松市をめざします。

2000年2月27日

会津若松市

市では、令和元年から令和5年を計画期間とする
「第5次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、
「性別にかかわらず、多様性を尊重し、一人ひとりが
その個性や能力を十分に発揮することができるまち」を目指して、
市民の皆さんや事業者の方々とともに取組を進めています。



市ユニバーサルデザイン
キャラクター
「ゆにばくくん」

発 行 令和4年1月

会津若松市 企画政策部 企画調整課 協働・男女参画室

〒965-8601 会津若松市東栄町3番46号
TEL. 0242-39-1405 FAX. 0242-39-1400

<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>
この作品集は市のホームページにも掲載しています

